

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	1	基本事務事業名	法定外公共物管理事務	事務事業名	法定外公共物管理事務	公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日					
	部局名	建設部			課名	建設課		主務課長名	猪尾 正		シート作成者名	神月 顕仁					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☒ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策) 5. 明日への基盤が整った阿波					実施計画		事業の開始・終了								
		基本計画(施策)					☐ 1 該当		平成 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし						
		主要施策					☒ 2 非該当		根拠法令等		法定外公共物の管理に関する条例						
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		道路、水路等の用地を使用する者													
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	国有財産であった法定外公共物が市に移管されて以降、法定外公共物の管理に関する条例を制定し管理及び負担の適正化を図っています。													
			今年度	適正な維持管理を引き続き行います。													
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 境界立会の申請により現地立会を行い、必要に応じて境界確定書を締結しています。																
	② 境界確定書締結により確定した道路・水路等について、用途廃止申請書の提出を受け、用途廃止後に契約管財課へ一般財産として引き継ぎます。																
	③ 境界確定書締結により確定した道路・水路等について、敷地を占有しようとする者及び工事施工する者に申請を義務付け管理基準の範囲内で許可を承認しています。																
	④ 電柱等の占有者から条例に基づき使用料(一般財源)を徴収することで、利用と負担の公平を図ります。																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	境界立会件数				件	目標											
						実績	42	59									
	用途廃止件数				件	目標											
						実績	4	5									
						目標											
実績																	
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	8	土木総務費		項	1	土木総務費		目	1	土木総務費	
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金			千円				千円								
		県支出金	10		千円		21		千円		15 千円						
		地方債			千円				千円								
		その他特定財源	200		千円		200		千円								
		一般財源	1,206		千円		951		千円		1,599 千円						
		計(A)	1,416		千円		1,172		千円		1,614 千円						
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910 千円		人	0 千円		人	0 千円							
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円		人	0 千円		人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		4,326 千円		1,172 千円		1,614 千円										

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	譲与を受けた道路・水路等において、管理上の占用及び使用に対する許可制は必要です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	管理と利用者負担を明確にします。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	受益者負担の適正化に努めます。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	位置図の電算化は完了していますが、現在以上の効率性向上及びコストの削減はできかねます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A	必要性 3	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	受益に対する負担の公平性を図るため、管理と負担の適正化を行います。人員・事務内容の関係で、維持管理(境界管理)について地籍調査課との調整が必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	受益者負担の適正化を図るため国等の道路占用料制度の動向を把握し、占用料の改訂に合わせて見直しを行います。維持管理(境界管理)について、協議を進めます。					改革案、実行計画に沿った事業実施を進めます。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	2	基本事務事業名	道路台帳整備事務		事務事業名	道路台帳整備事務		公的関与	1	シート作成日	平成30年6月30日				
	部局名	建設部			課名	建設課			主務課長名	猪尾 正			シート作成者名	神月 顕仁				
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託							
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等							
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了								
		基本計画(施策)		(2) 道路・公共交通の充実				☐ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし	
		主要施策						☒ 2 非該当		根拠法令等		道路法						
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		道路法														
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	電子化することにより統合型GISの基盤データに利用することで、今後の行政内部のICT環境に役立てます。													
				今年度	平成29年度に竣工した道路改良部分を電算化します。													
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																	
	① 道路台帳平面図整備(平成29年度改良部分)																	
	② 道路台帳調書整備(平成29年度改良部分)																	
	③ 路線の見直し																	
	④ 未登記道路の登記事務																	
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標								
	-		台帳整備のため指標設定になじまないため				目標											
							実績											
							目標											
							実績											
							目標											
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	1	道路維持費	
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考									
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円							
		県支出金			千円			千円			千円							
		地方債			千円			千円			千円							
		その他特定財源			千円			千円			千円							
		一般財源	4,860		千円	4,968		千円	5,163		千円							
		計(A)	4,860		千円	4,968		千円	5,163		千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500	人	2,910	千円	0.500	人	2,965	千円	0.500	人	2,903	千円				
		臨時・嘱託職種																
		臨時・嘱託工数・経費	0.000	人	0	千円	0.000	人	0	千円	0.000	人	0	千円				
	全体事業費(A+B)		7,770		千円	7,933		千円	8,066		千円							

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	前年度の道路改良部分を電子化することで、さらに完成度の高いシステムとして、より良い住民サービスができます。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	市が管理する道路を電算化することで、的確な維持管理業務を行うことができます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	前年度に竣工した道路改良などについて、翌年度には電算化しています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	電算化するまでの基礎資料作成などの事務について、効率化を図るよう努めます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持		☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持		☐ 方法改善	☐ 民間委託等		
		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定		☐ 廃止/休止		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定		☐ 廃止/休止			
						二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点					
当面の課題	道路台帳管理システムに水路情報などの道路以外の情報を持たせることにより、複合的に活用できるシステム作りを図ります。					道路台帳管理システムについて、幅広い活用計画の検討を図ります。					
改革案と実行計画	道路台帳システムの電算化としては、完了といえる状態です。現在、毎年度の更新業務が主な業務となっていますが、運用方法の見直しで効率化を図ります。										
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	3	基本事務事業名	交通安全施設等整備事務	事務事業名	交通安全施設等整備事務	公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課		主務課長名	猪尾 正		シート作成者名	片岡 大樹			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)				5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画					
		基本計画(施策)				(2) 道路・公共交通の充実				☒ 1 該当					
		主要施策				(4) 安全で環境と人にやさしい道路空間づくり				☐ 2 非該当					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		市道の区画線、ガードレール、カーブミラー等の交通安全施設											
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	見通しの悪い道路等での事故防止のため、区画線、ガードレール、カーブミラーの新設・補修により交通事故の発生件数の低減を図ります。										
				今年度	要望をまとめたうえで費用対効果も勘案し、可能な限り交通安全施設の整備を行います。										
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 区画線新設														
	② ガードレール新設・補修														
	③ カーブミラー新設・補修														
	④ 転落防止柵新設・補修														
	⑤ 車線分離標新設														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	要望箇所施工実績		施工箇所/要望箇所		%		目標	100%	100%						
							実績	35/35	38/38						
							目標								
							実績								
							目標								
							実績								
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	8	土木費	項	2	道路橋りょう費	目	3	道路新設改良費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円				
		県支出金			千円			千円			千円				
		地方債			千円			千円			千円				
		その他特定財源			千円			千円			千円				
		一般財源	10,666 千円			10,924 千円			11,000 千円						
		計(A)	10,666 千円			10,924 千円			11,000 千円		千円				
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910 千円		0.500 人	2,965 千円		0.500 人	2,903 千円					
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円		人	0 千円		人	0 千円					
	全体事業費(A+B)		13,576 千円			13,889 千円			13,903 千円						

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明		二次評価			
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	1. 公共施設でありますので、市で実施しなければ公平性が確保できないと思います。 4. 要望が数多くあり、ニーズの低下は見られないと思います。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	1. 内容は設置指針等に準拠しており適切です。 2. 要望箇所は新たに追加されるため、マンネリ化はないと思います。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	要望箇所への対応は概ね達成しておりますが、その他にも危険な箇所は数多くあり、これらの必要度を把握し、目標を設定・判定する必要があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	山間部など供用者が少ない箇所においてはコストが相対的に高くなる箇所もあります。しかしながら、人命にかかわる事業であり、コストだけで判断しかねる部分もあります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 3	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 3	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	要望箇所への対応のみではなく、現状の危険箇所を把握し、客観的に必要度が高い箇所への施工を優先的に行うようにします。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	道路の利用者数・交通安全施設の有無による危険度の変化などから必要度の指標を作成し、具体的な目標を設置します。					安全・安心に通行できる道路環境を作るためには、交通安全施設の整備等は必要不可欠です。引き続き適正な事業推進を図ります。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	4	基本事務事業名	市単独事業(市道維持・局部改良)	事務事業名	市単独事業(市道維持・局部改良)	公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課		主務課長名	猪尾 正		シート作成者名	川城 慎二			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(2) 道路・公共交通の充実				☒ 1 該当		平成	年	～	平成	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(3) 市道及び橋梁の整備・維持管理				☐ 2 非該当		根拠法令等		道路法			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	市道												
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	より便利かつ快適・安全な生活道路を市民に提供することが目的です。											
			今年度	市民より要望されている箇所、舗装等の老朽箇所の工事をを行います。											
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 測量設計														
	② 用地交渉														
	③ 土地分筆登記														
	④ 工事発注・監督														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	要望箇所施工実績		施工箇所(進行中含む)/ 要望箇所		%		目標 100%	100%							
							実績 13/20=65%	12/36=33%							
							目標								
							実績								
							目標								
							実績								
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	8	土木費	項	2	道路橋りょう費	目	3	道路新設改良費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円		※6月補正後の予算額を記載						
		県支出金	千円		千円		千円								
		地方債	7,700 千円		12,500 千円		62,400 千円								
		その他特定財源	千円		千円		千円								
		一般財源	195,295 千円		158,161 千円		113,733 千円								
		計(A)	202,995 千円		170,661 千円		176,133 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	3.090 人	17,982 千円	3.090 人	18,324 千円	3.090 人	17,938 千円							
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		220,977 千円		188,985 千円		194,071 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	1.道路法第16条(市町村道の管理は、その路線の存する市町村が行う。)により、道路管理者である市が実施主体の必要があります。2. 4mに改良された道路でないと緊急自動車の出入り等に支障をきたすため、継続する必要があります。しかしながら、要望箇所の中には緊急性が低いものもあります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	1.適切な工法を検討しています。 2.事業毎に箇所・内容が異なるため内容のマンネリ化はありません。 3.ないです。 4.道路網の整備によって利便性は向上します。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	要望箇所を検討し、実施を決定した箇所については概ね工事に着手できているので、目標を達成できています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	1.交通量が少なく、効果に対して相対的にコストが高くなってしまう場合もあります。 2.国・県のノウハウを活用できる場面もあり、随時検討を行っています。 3.現在は適切だと感じますが、予算額の変化によっては見直す余地があります。 4.入れなどによって、適正なコストで事業を行っています。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 3	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 3	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	施工箇所の抽出において、要望者数や他の指標(B/C、現道の擁壁の危険判定等)をより活用できるようにします。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	現状以上に効率的、効果的な道路改良や維持修繕を行うため、整備方法の検討をより積極的に進めていきます。					市民生活の安心・安全を図るため、市道の局部改良、舗装修繕等、道路の機能を維持していくことは必要です。今後も要望箇所の詳細把握に努め、適正な予算執行を図り、効果的、効率的な事業を進めます。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	5	基本事務事業名	地方道路交付金事業		事務事業名	中央東西線自歩道改良工事		公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課			主務課長名	猪尾 正			シート作成者名	三木 聡			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(2) 道路・公共交通の充実				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策						☐ 2 非該当		根拠法令等		道路法					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		歩行者、自転車の通行の安全を図ります。													
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	中央東西線久勝地区、伊沢地区の全線開通を目標にします。													
			今年度	久勝地区は森沢地区交差点付近の改良を予定。伊沢地区は北原地区交差点西側の用地交渉を実施し、交差点事故防止を図ります。													
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 自歩道の整備																
	② 排水施設の整備																
	③ 照明施設の整備																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	事業計画消化率		工事実施区間/施工予定区間		%		目標	92%	93%	93%							
							実績	92%	93%								
							目標										
							実績										
							目標										
						実績											
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	8	土木費	項	2	道路橋りょう費	目	4	地方道整備事業費			
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考											
	直接事業費	国庫支出金	22,974 千円		19,546 千円		27,752 千円		※6月補正後の予算額を記載								
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	24,000 千円		12,900 千円		17,920 千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	3,696 千円		770 千円		15,328 千円										
		計(A)	50,670 千円		33,216 千円		61,000 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910 千円	0.500 人	2,965 千円	0.500 人	2,903 千円									
		臨時・嘱託職種															
臨時・嘱託工数・経費		0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円										
全体事業費(A+B)		53,580 千円		36,181 千円		63,903 千円											

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	当区域は通学路となっており、歩行者、自転車の安全確保が求められています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	自歩道設置による通行空間の隔離は自転車、歩行者の安全確保に有効です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	計画区間について、順調に進んでいます。用地取得区間から随時自歩道整備を進めています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	通学路として効率良く活用できます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等				☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等					
		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止				☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止					
	当面の課題	久勝地区と伊沢地区ともに約92%が完了しており残りあと僅かで全線開通する。用地困難箇所を再度確認し、残りの用地買収及び補償物件移転を早期に進めていき工事を実施します。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	事業計画を着実に推進します。					沿線には、幼小中高の学校や公民館等の公共施設があり、利用者の安心・安全を図る自歩道整備は必要です。現在、用地取得が得られた区間においては概ね整備が完了しています。残る区間においては、家屋補償等多額の予算が必要となることから、費用対効果の検討も必要となります。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	6	基本事務事業名	適正な土地利用の推進事務		事務事業名	開発許可等事務		公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日		
	部局名	建設部			課名	建設課			主務課長名	猪尾 正			シート作成者名	神月 顕仁		
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☒ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託					
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等					
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了						
		基本計画(施策)		(1) 計画的な土地利用の推進				☐ 1 該当		平成 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし				
		主要施策						☒ 2 非該当		根拠法令等		国土利用計画法等				
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		開発行為をしようとする者												
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	適切な土地利用の制限を行い、良好な住環境の整備を指導します。												
			今年度	適切な土地利用の制限を行い、良好な住環境の整備を指導します。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)															
	① 開発行為の指示を行います。															
	② 阿波市開発事業の調整に関する条例(H17施行)等により、適切な事業用地の開発指導を行います。															
	③ 農地法、建築基準法、消防法、景観法、都市計画法、その他関係法令との調整を行い適切な指導を行います。															
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標						
	開発行為の指示 (数値目標設定なし)		申請書届出による		件		目標 実績	7	16							
							目標 実績									
							目標 実績									
							目標 実績									
							目標 実績									
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	8	土木費	項	1	土木管理費	目	1	土木管理費		
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考							
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円									
		県支出金	千円		千円		千円									
		地方債	千円		千円		千円									
		その他特定財源	千円		千円		千円									
		一般財源	50 千円		124 千円		250 千円									
		計(A)	50 千円		124 千円		250 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.750 人	4,364 千円	0.750 人	4,447 千円	0.750 人	4,354 千円								
		臨時・嘱託職種														
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円								
	全体事業費(A+B)		4,414 千円		4,571 千円		4,604 千円									

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	地域における適正な開発事業の実施に関する調整を行います。事業者本人の意識によって、手続きや事業進捗の状況が左右されます。市内の建築確認を要する区域が非常に少なく、他に建築造成を制限・規制するものがないです。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	現在及び将来の市民への健康で快適な環境確保に寄与します。しかし、手続き等の前に建築等の行為が行われる事例も見られ、このことにより規制がかからず、指導による調整となってしまうことがあります。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	適正かつ迅速に審査事務を行います。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	他部局・関係機関との連携を行います。申請者が行う申請書の作成等、手続きに必要な経費が高額になります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実		☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等
		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小		☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止	
	当面の課題	土地利用計画（都市計画・用途地域・建築主事の確認区域等）の策定時には、取扱い要領（手引き）の見直しを検討します。また、太陽光発電施設に関する協議及び相談の件数が非常に多く、他の業務に影響しています。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	阿波市国土利用計画、農業振興地域整備計画、阿波市環境基本条例等との整合性を図ります。					市域における適切な土地利用と良好な住環境を守る上で必要な事務事業です。各種計画との整合性を図りながら継続して取り組んでいきます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	7	基本事務事業名	適正な土地利用の推進事務		事務事業名	国土利用計画推進事務		公的関与	1	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課			主務課長名	猪尾 正			シート作成者名	神月 顕仁			
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策) 5. 明日への基盤が整った阿波						実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策) (1) 計画的な土地利用の推進						☒ 1 該当		平成 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし					
		主要施策 (1) 土地利用関連計画の見直し・総合調整						☐ 2 非該当		根拠法令等		国土利用計画法等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		国土利用計画法に定める届出が必要な土地取引や阿波市の全地域													
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	計画的かつ高度な土地利用を推進するため、国土利用計画に基づき農業振興地域整備計画等の見直しや総合調整を行い、土地利用の明確化を図ります。												
				今年度	土地利用関連計画や関連法等についての周知に努めるとともに、市条例等の適正な運用により、適正な土地利用を推進します。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 国土利用計画法などの適正な運用を図ります。																
	② 安全で安心な市土の形成を図ります。																
	③ 環境の保全と美しい市土の形成を図ります。																
	④ 土地利用の転換の適正化を図ります。																
	⑤ 土地の有効利用を促進します。																
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	設定できない		用途別や地域別に土地の有効利用を図る。			目標											
						実績											
						目標											
						実績											
						目標											
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	8	土木費		項	1	土木管理費		目	1	土木管理費	
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	千円		千円		千円										
		計(A)	0 千円		0 千円		0 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.125 人	727 千円	0.125 人	741 千円	0.125 人	726 千円									
		臨時・嘱託職種															
臨時・嘱託工数・経費		0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円										
全体事業費(A+B)		727 千円		741 千円		726 千円											

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	国土利用計画どおりに土地利用を行うことは、市全体の総合的かつ計画的な土地利用に結びつきます。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	国土利用計画に基づき、市は国土利用計画を定め、その規定に従って推進するため必要です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	目指すべき基本理念に向けて用途別や地域別に土地の有効利用を図ります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	国土法に係る事務については、最小限の予算と人件費で事務を行っていることから、今以上の削減は難しいと思われます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	計画の推進には、市民や事業者等の理解と積極的な参画が必要となります。市民や事業者、関係機関等に対して啓発していくことが必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	関係法令などの適切な運用により、県計画及び本計画など土地利用に関する計画を基本として、土地利用の計画的な調整を行います。また、市のホームページなどにより計画の周知を行います。					計画に基づき適切な調整・運用を行っていきます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	8	基本事務事業名	高速道路整備事業		事務事業名	阿波市スマートIC設置検討業務		公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課			主務課長名	猪尾 正			シート作成者名	矢部 泰世			
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)				5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画				事業の開始・終了			
		基本計画(施策)				(2) 道路・公共交通の充実				☒ 1 該当		平成 年 ~ 平成 年		☒ 期間設定なし			
		主要施策				(1) 徳島自動車道の整備促進				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市スマートIC													
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	四国縦貫自動車の土成IC・脇町IC間にスマートICが設置されるようにします。												
				今年度	設置要望箇所の絞り込みを進めます。												
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① スマートIC設置可能箇所での調査																
	② 徳島県高規格道路課等との協議																
	③ 国(四国地方整備局・徳島河川国道事務所)、県(高規格道路課)、NEXCO西日本(四国支社)との意見交換会																
	④ 国(四国地方整備局)、徳島県、NEXCO西日本(四国支社)へ要望																
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	協議実施回数		徳島県高規格道路課及び 庁内での協議実施回数		回	目標											
						実績	21	12									
	意見交換会		国、県、NEXCO西日本との 意見交換回数		回	目標											
						実績	8	4									
	要望活動		国、県、NEXCO西日本への 要望活動		回	目標											
					実績	1	3										
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費		目	4	地方道整備事業費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	千円		千円		千円										
		計(A)	0 千円		0 千円		0 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人	1,746 千円	0.300 人	1,779 千円	0.300 人	1,742 千円									
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円									
	全体事業費(A+B)		1,746 千円		1,779 千円		1,742 千円										

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	国内IC間の平均距離が10kmと言われる中、土成IC・脇町IC間は18.8kmと長く、市民の方が高速道路を有効活用しづらい状況であり、中間地点にICが必要とされています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	ICが設置させると、経済効果はもとより、災害発生時には交流防災拠点施設アエルワを有効活用でき、災害対策の面でも有効性は十分にあります。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	IC設置には、最終的に国土交通大臣の連結許可が必要ですが、そこに至るまでに様々な要件が必要です。その要件に対して、十分に検討、協議を重ねる必要があります。また、関係機関に対して要望活動が必要です。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☒ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	すでにスマートICを設置している自治体や、事業実施中の自治体の事例を参考にしながら、阿波市ならではの方法を模索することで実現性を高めます。	☒ 高い	☐ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 3	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 2	効率性 1	総合評価 B
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小		☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小		☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☒ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等
	当面の課題	阿波市としてのスマートIC設置要望箇所を絞り込む必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	さらなる調査と協議を行い、設置要望箇所の絞り込みを行います。					国土交通省、県、西日本高速道路㈱及び阿波市による「準備会」を設立し、整備効果などを考慮した最適位置の協議を進め、本市としての最適位置を絞り込んでいるが、概算整備事業費の面がネックとなり次の段階に進めない状況にあります。今後も関係機関との連携を図り、ハーフインターも一つの選択肢として協議を行い、スマートインターの整備実現に努めます。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	9	基本事務事業名	広域環境処理施設周辺対策事業	事務事業名	道路改良舗装事業	公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課		主務課長名	猪尾 正		シート作成者名	松本 祐樹			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(2)道路・公共交通の充実				☒ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 31 年 ☒ 期間設定なし					
		主要施策		(3)市道及び橋梁の整備・維持管理				☐ 2 非該当		根拠法令等 一般廃棄物中間処理施設対策基金条例					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		広域環境処理施設周辺対策対象地域											
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	広域環境処理施設周辺の市道改良等の事業を実施します。										
				今年度	引き続き、施設周辺道路の改良等を行います。										
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 測量設計														
	② 用地交渉・土地分筆登記														
	③ 工事発注・監督														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	要望箇所施工実績		施工箇所(進行中含む)/要望箇所		%		目標 100%	100%	100						
							実績 33/40=83%	38/46=83%							
							目標								
							実績								
							目標								
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	8	土木費	項	2	道路橋りょう費	目	6	周辺対策事業費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円								
		県支出金	千円		千円		千円								
		地方債	千円		7,500 千円		16,100 千円								
		その他特定財源	246,580 千円		310,225 千円		198,000 千円								
		一般財源	千円		1,999 千円		1,050 千円								
		計(A)	246,580 千円		319,724 千円		215,150 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	2.500 人	14,548 千円	2.500 人	14,825 千円	2.500 人	14,513 千円							
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		261,128 千円		334,549 千円		229,663 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	広域環境処理施設周辺対策の一環として道路整備や集会所整備、公園整備等を行っています。要望を精査し、事業効果が高い箇所から順に整備を行っており、必要性が認められます。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	周辺地域の現状として、幅員4m未満の未改良道路や排水路整備が出来ていない箇所も多く、要望箇所を整備していくことは、周辺地域の道路環境の向上に有効です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	要望があった箇所について、概ね事業着手できていますが、用地や補償の問題などにより、事業化できない場合もあります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	入れなどによって、適正なコストで事業を行っていますが、県などの関係機関や民間などのノウハウを活用できる場面もあり、随時検討を行っていきます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	広域環境処理施設周辺対策事業として道路改良、排水路改良等を行ってきましたが、周辺対策事業の終了時期が近づき、事業実績を把握した上で、これまで以上に要望箇所の効果や必要性を検討しながら事業を進めていく必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	周辺対策事業での実績を把握するとともに、今後も要望箇所を事業化する際に、用地などの地元の同意や改良による事業効果などを検討し、より効率的で有意義な事業となるよう努めてまいります。					広域環境処理施設周辺対策事業も後半となり、事業全体の効果を評価される時期となっています。要望箇所の精査を行い周辺地域の将来を見据えた整備を目指していきます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	10	基本事務事業名	火葬場周辺対策事業		事務事業名	道路改良舗装事業		公的関与	4	シート作成日	平成30年6月30日			
	部局名	建設部			課名	建設課			主務課長名	猪尾 正			シート作成者名	有井 憲一			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託						
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等						
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了							
		基本計画(施策)		(2)道路・公共交通の充実				☒ 1 該当		平成		年	～	平成		年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(3)市道及び橋梁の整備・維持管理				☐ 2 非該当		根拠法令等							
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		事業対象地域													
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	事業対象地域の道路改良等を実施します。												
				今年度	道路改良工事等を行います。												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)																
	① 測量設計業務																
	② 公共嘱託登記業務																
	③ 工事発注・監督																
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標							
	要望箇所施工実績		施工箇所(進行中含む)		%		目標	100%	100%	100%							
							実績	2/2=100%	2/2=100%								
							目標										
							実績										
							目標										
							実績										
DO	予算費目	会 計		款		項		目									
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考								
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円										
		県支出金	千円		千円		千円										
		地方債	千円		千円		千円										
		その他特定財源	千円		千円		千円										
		一般財源	8,834 千円		7,840 千円		5,750 千円										
		計(A)	8,834 千円		7,840 千円		5,750 千円										
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910 千円	0.500 人	2,965 千円	0.500 人	2,903 千円									
		臨時・嘱託職種															
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円									
	全体事業費(A+B)		11,744 千円		10,805 千円		8,653 千円										

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	火葬場周辺地域の要望は依然として多く、要望箇所の整備ができていない箇所を含め、継続した事業が強く求められています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	火葬場の必要性からも、周辺地域への対策事業は必要であり、現在地での継続した火葬場運営のためには大変有効と思われます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	地元協議会の要望を踏まえながら計画に基づき整備しています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	入札等により、適正なコストで事業を行っていますが、県等のノウハウを活用できる場面もあり、随時検討を行っていきます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	火葬場周辺対策事業により道路改良等の整備を行ってきましたが、周辺地域の要望は依然として多く、限られた予算を有効活用するためにも施工方法等、より効果的、効率的に事業を検討する必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	年間予算が限られているので、要望箇所を事業化する際に地元協議会と連携して整備に努めます。					事業要望箇所が多くありますが、予算も限られていることから、より効果的、効率的な事業実施を図ることが重要です。今後においても、地元協議会と連携した事業推進に努めます。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	11	基本事務事業名	広域環境処理施設周辺対策事業	事務事業名	公園・緑地等の整備・改修	公的関与	4	シート作成日	平成31年1月10日			
	部局名	建設部			課名	建設課		主務課長名	猪尾 正		シート作成者名	松本 祐樹			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(7)公園・緑地の充実				☒ 1 該当		平成 17 年 ~ 平成 31 年		☒ 期間設定なし			
		主要施策		(1)公園・緑地の整備・改修				☐ 2 非該当		根拠法令等		一般廃棄物中間処理施設対策基金条例			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		広域環境処理施設周辺対策事業対象地域											
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	広域環境処理施設周辺の公園整備事業を実施します。										
				今年度	引き続き、公園の完成に向けて工事を進めてまいります。										
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 公園整備工事測量設計														
	② 公園整備工事発注および監督														
数値目標 (事業の目的 及び活動内容 の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	公園整備箇所数		施工完了状況/要望箇所		%		目標 60%	80%	95%	100%					
							実績 1/2=50%	1.25/2=63%							
							目標								
							実績								
							目標								
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	8	土木費	項	2	道路橋りょう費	目	6	周辺対策事業費
			平成 28 年度決算		平成 29 年度決算		平成 30 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円				
		県支出金			千円			千円			千円				
		地方債			千円			千円			千円				
		その他特定財源	1,856		千円	23,888		千円	105,260		千円				
		一般財源			千円			千円			千円				
		計(A)	1,856		千円	23,888		千円	105,260		千円				
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.500 人	2,910	千円	0.500 人	2,965	千円	0.500 人	2,903	千円				
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0	千円	人	0	千円	人	0	千円				
	全体事業費(A+B)		4,766		千円	26,853		千円	108,163		千円				

土成町にある宮川内河川敷公園については、公園利用者等の要望を確認し、整備を行っています。
吉野町の姥御前防災公園については、平成29年度より事業を進めており、平成31年度の完成を予定しています。

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

		チェック項目		一次評価		一次評価の説明		二次評価			
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	広域環境処理施設周辺対策の一環として公園整備等を行っています。利用者等の要望を精査し、公園の設計および工事を進めており、必要性が認められます。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	広域環境処理施設の周辺地域での環境整備および憩いの場の整備として、本事業を推進しており、公園を整備していくことは、周辺地域の環境整備に寄与することになります。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	吉野町の姥御前防災公園の整備については、平成31年度の完成を目指して、工事等の事業を推進し、概ね予定通り進められています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	入札などによって、適正なコストで事業を行っていますが、県などの関係機関や民間などのノウハウを活用できる場面もあり、随時検討を行っていきます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	広域環境処理施設周辺対策事業として公園整備を進めているところであるが、利用者の意見等を確認し、より事業効果のある公園整備を進めていきます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	特に吉野町の姥御前防災公園は、完成時に周辺住民へ使い方等の説明を行い、地域の方々に利用してもらう公園となるよう、努めてまいります。					広域環境処理施設周辺対策事業も後半となり、事業全体の効果を評価される時期となっています。公園利用者や周辺住民等の意見を考慮し、利用しやすい公園となるよう事業を進めていきます。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成29年度実施事業対象

PLAN	No.	27	—	12	基本事務事業名	地方道路交付金事業	事務事業名	橋梁整備・維持管理事業	公的関与	4	シート作成日	平成31年1月18日			
	部局名	建設部			課名	建設課	主務課長名	猪尾 正	シート作成者名	矢部 泰世					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☒ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		5. 明日への基盤が整った阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(2) 道路・公共交通の充実				☒ 1 該当		平成	年	～	平成	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(3) 市道及び橋梁の整備・維持管理				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市が管理する道路橋											
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	阿波市が管理する道路橋を5年に1回の頻度で定期点検を行い、長寿命化修繕計画・耐震化計画に基づき、修繕や整備を行います。										
				今年度	阿波市が管理する道路橋の1回目の定期点検を終了します。また、耐震化・補修調査設計も行います。										
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 橋梁の点検調査を行い、健全性の診断(部材単位の健全性の診断)を行います。														
	② 橋梁の耐震化・補修調査設計を行います。														
	③														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	最終目標					
	橋梁点検		点検を行った橋梁数		橋	目標									
						実績	132	177							
	耐震化・補修調査設計		調査設計を行った橋梁数		橋	目標									
						実績	1	1							
	耐震化・補修工事		工事を行った橋梁数		橋	目標									
					実績	1	1								
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	8	土木費	項	2	道路橋梁費	目	4	地方道路整備事業	
			平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算	備考									
	直接事業費	国庫支出金	30,000 千円		34,720 千円		29,011 千円								
		県支出金	千円		千円		千円								
		地方債	6,700 千円		8,200 千円		26,400 千円								
		その他特定財源	千円		千円		千円								
		一般財源	14,027 千円		16,912 千円		1,589 千円								
		計(A)	50,727 千円		59,832 千円		57,000 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人	1,746 千円	0.300 人	1,779 千円	0.300 人	1,742 千円							
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円							
	全体事業費(A+B)		52,473 千円		61,611 千円		58,742 千円								

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	定期点検は、道路橋の最新の状態を把握するとともに、次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で、必要な情報を得るために行う。また、道路ネットワークの確保についても、橋梁の耐震化・補修工事が必要であります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	点検結果に基づき、長寿命化修繕計画により、可能な限り橋を長持ちさせて、橋の修繕・架替えにかかる費用を抑えます。橋の耐震化計画により、「災害時における道路ネットワーク」を確保します。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	国が定める「橋梁の定期点検」については、平成30年度で完了し、「橋梁長寿命化修繕計画」、「橋梁耐震化計画」も国の交付金を活用し進めています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☒ 高い	☐ 適当	「橋梁の定期点検」の結果をもとに、徳島県道路メンテナンス会議、各自治体の事例を参考にしながら、「橋梁長寿命化修繕計画」を随時改善してき、維持管理の効率性を高めます。	☒ 高い	☐ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☒ できる	☐ できない		☒ できる	☐ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	1	B	4	4	3	1	B
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民間委託等							
		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止		☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止							
	当面の課題	阿波市が管理する道路橋(682橋)で、建設年度が判明している386橋について2030年には、高齢化した橋(建設後50年が経過)の割合が57%(220橋/386橋)となり、急速に高齢化した橋の増大が予測される。このようなことから、可能な限り橋を長持ちさせて、橋の修繕・架替えにかかる費用を抑える取り組みが必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	橋の修繕・架替えにかかる費用を抑える取り組みとしては、「長寿命化修繕計画」の改善を行います。					今後、老朽化した橋梁が急速に増加することが予測され、橋梁の修繕・架替えにかかる費用も増大することから、現在の橋梁の状況を十分把握した「橋梁長寿命化修繕計画」の見直しを進め、適正な維持管理を図ることで、橋梁の修繕・架替えに伴う事業予算の抑制に努めていきます。					
委員会指摘事項											